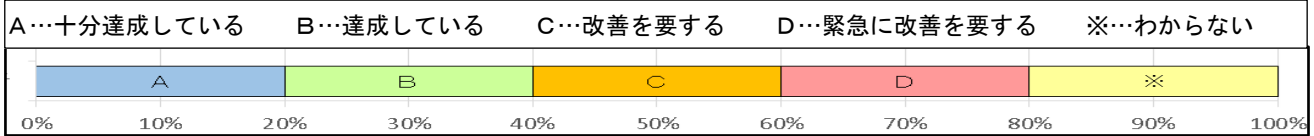


平成29年度 中央区立日本橋中学校 自己評価報告書

学校名：中央区立日本橋中学校 所在地：東京都中央区東日本橋1-10-1
 校長名：平松 功治
 生徒数：334名 学級数：10 教員数：19(非常勤9) 職員数：5

○グラフの見方(項目の説明)



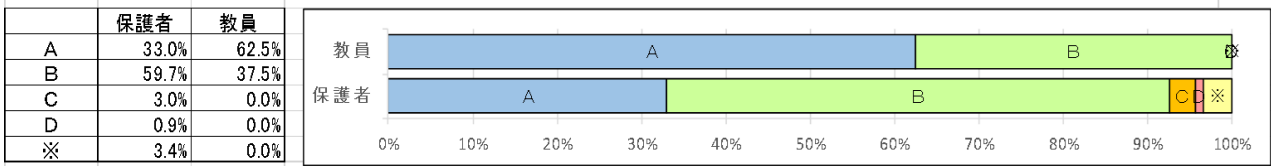
1 重点目標の達成状況

重点目標1 生徒一人一人を大切にしたい学習指導で学びの質を保障し、確かな学力の向上を図る。

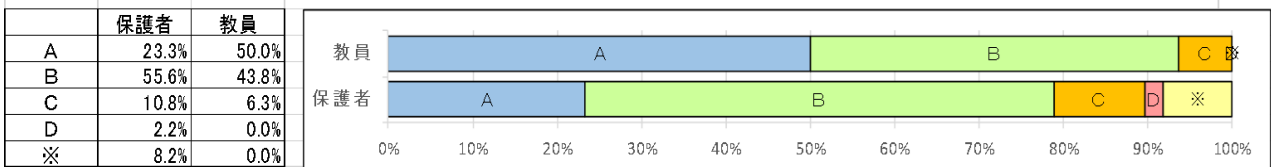
評価項目 確かな学力の向上と定着

評価指標(成果及び取組の状況)

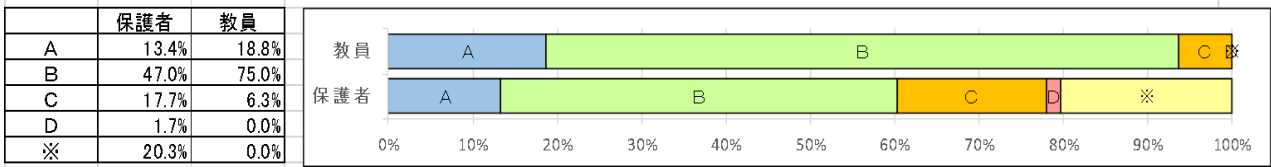
1 土曜授業等年間行事や1日の時程を工夫し、各教科等の授業時数を確保しているか。



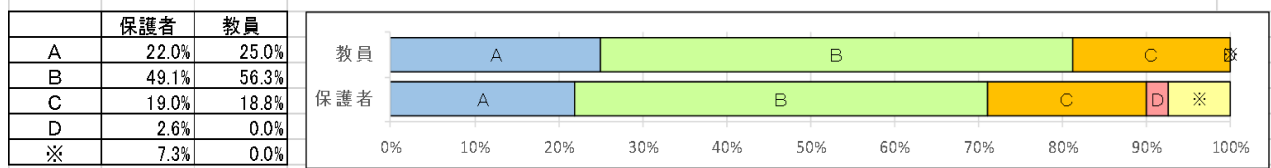
2 授業規律を徹底し、落ち着いた環境で授業を進めているか。



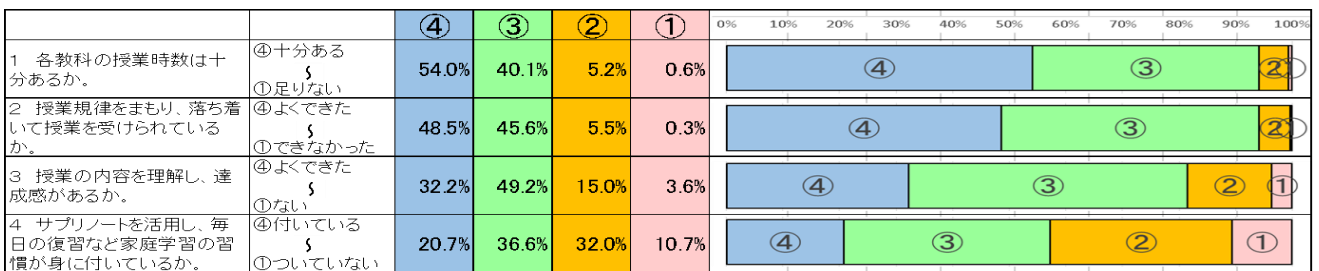
3 「分かった」や「できた」の実感をもたせる授業を提供しているか。



4 サプリノートや各種検定の取組で、自学・自習の学習習慣が身に付く指導をしているか。



○生徒評価



【重点目標1について】

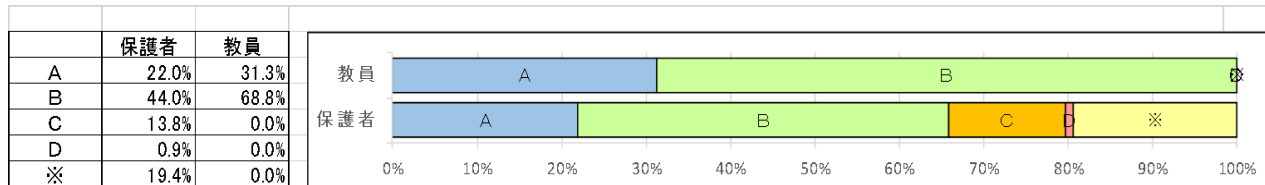
学力向上に関する取組の評価として1授業時数の確保は三者(教員、保護者、生徒)とも約90%、授業規律の徹底については約80%と高い肯定的評価を得られた。3授業内容等の質に関する部分では、教員、生徒は、80%を超える肯定的評価だったが、保護者は約60%と低い数値となった。これは、「わからない」と回答する保護者が20%を超えたのが、主な理由である。4サプリノートの取組や家庭学習に関しては三者とも肯定的評価の割合が他に比べ低く、課題と捉えていることが分かる。家庭との連携を密にした自学自習の取組を進めたい。

重点目標2 暴力やいじめがなく、生徒同士、生徒と教師が、規律をもって豊かに関わり合う。

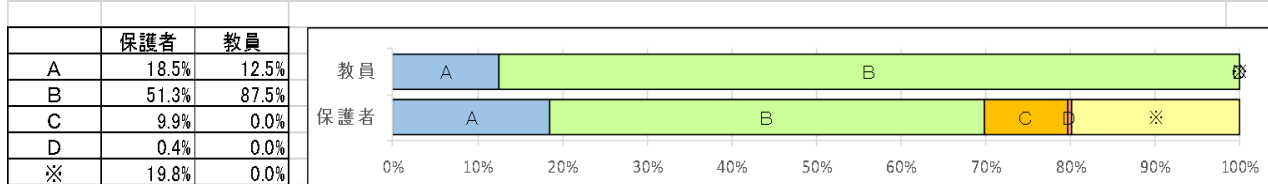
評価項目 豊かな人間性の育成

評価指標(成果及び取組の状況)

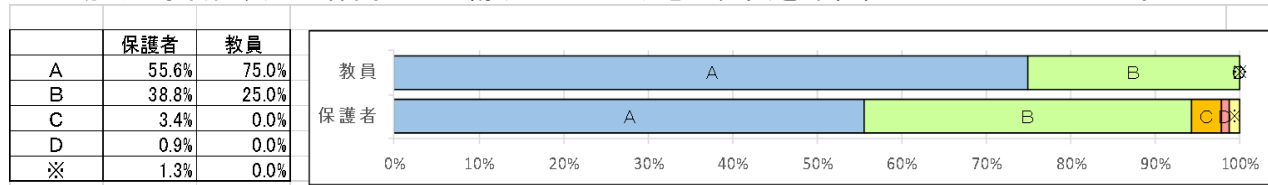
5 学校生活でいじめ・不登校・問題行動等の未然防止や早期発見に努めているか。



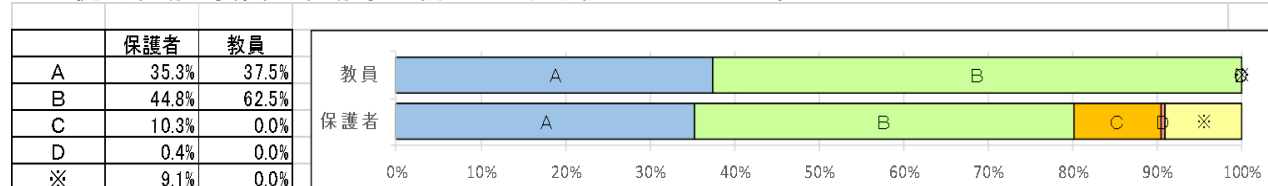
6 道徳の時間において話し合い活動が充実する工夫をしているか。



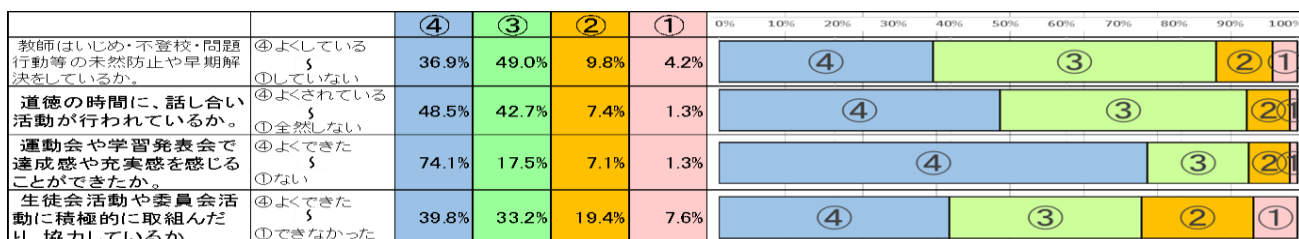
7 運動会や学習発表会で仲間と共に創り上げる達成感や充実を味わわせることができたか。



8 生徒会活動や委員会活動等に率先して取り組ませているか。



○生徒評価



【重点目標2について】

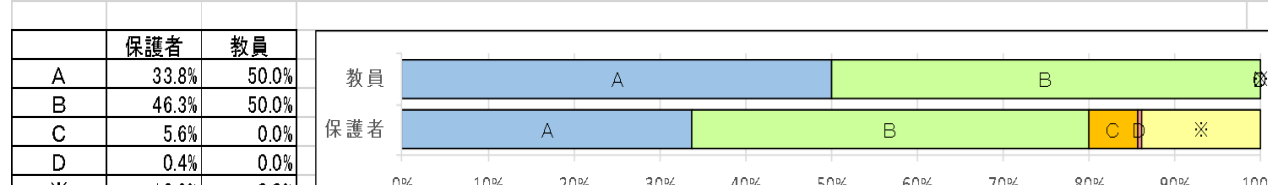
5 いじめ、不登校等問題行動の早期発見についての評価は、保護者、生徒共に10%を超えて課題とする回答があった。生徒一人一人を大切にした対応をさらに進め、肯定的評価をさらに高めていきたい。6 道徳については教科化を見据え、話し合い活動の充実を目指した結果が、生徒の肯定的評価の割合に現れた。7 運動会等の行事に関する肯定的評価が三者とも90%を超え、充実した活動を通して多くの生徒が達成感を味わうことができている。8 委員会活動への取組方で、約4分の1の生徒が活動意欲に課題があると捉えている。生徒の主体的に取り組む意欲の増す活動を充実させたい。

重点目標3 日々の学校生活を健康・安全に過ごすとともに、将来展望性をもたせる活動を充実させる。

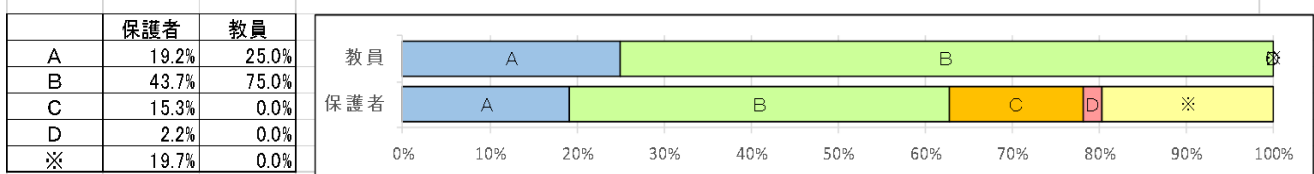
評価項目 生涯にわたって健康に過ごせる心身の育成

評価指標(成果及び取組の状況)

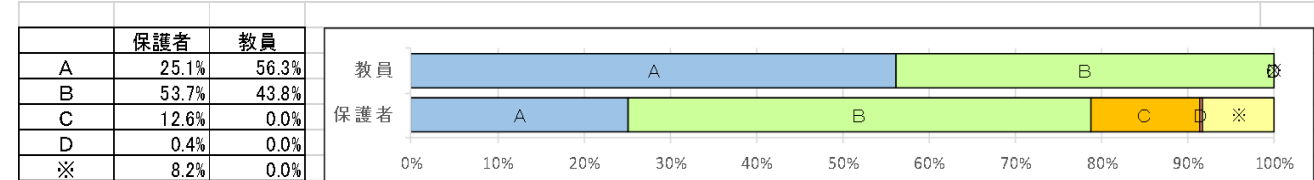
9 朝礼等全体が集まる場で、安全で規律ある集団の一員として自覚ある行動ができたか。



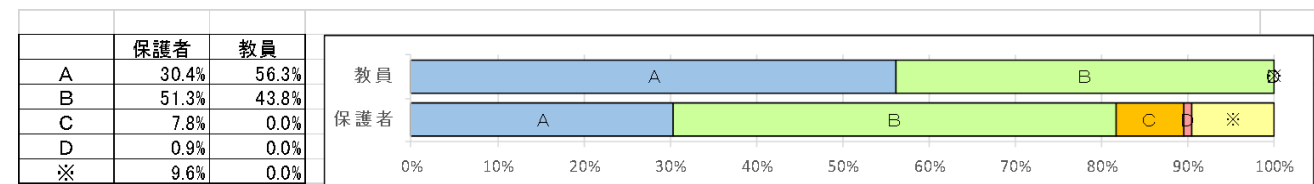
10 昼休みに校庭や体育館、屋上で、身体を動かす機会をもったか。



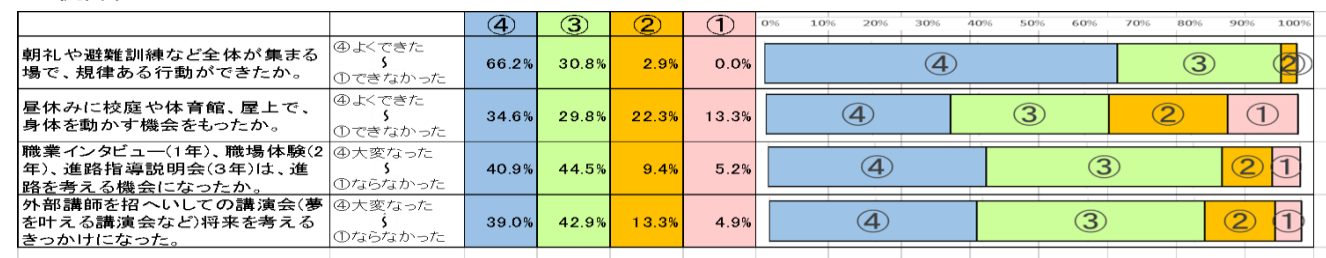
11 職業インタビュー(1年)、職場体験活動(2年)、進路指導説明会(3年)は、自らの進路を考える機会になったか。



12 外部講師を招聘しての講演会は、先人の生き方に触れ、将来を考えるきっかけになったか。



○生徒評価



【重点目標3について】

9 集団行動の規律に関しては三者とも肯定的評価の割合が多く、特に生徒は95%を超える数値であった。10 学校生活で運動に主体的に関わる機会を問う設問では、肯定的な意見の割合が生徒、保護者とも60%を少し超える程度で、他の設問に比べ課題である。11、12のキャリア教育に関する設問は三者とも約80%が肯定的な回答で、充実した取組になっていたと言える。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

教員の全方位的な評価で改善を要するものとして上がったのが、学校運営や分掌間の連携など組織運営に関する課題である。特定の教員に校務が集まる傾向があり、改善が必要である。また本年度の重点としなかった教育課題への対応も課題と捉えている教員がいた。

保護者の評価で肯定的評価の割合が80%を超えたのが、①教員の生徒への接し方(86.6%)、②生徒の学校生活の様子(89.6%)、③健康・体力の増進への取組(80.3%)、④規範意識や思いやりの心の育成(81.4%)、⑤学校への相談のしやすさ(80.1%)、⑥学校・家庭・地域の連携(80.2%)、⑦安全対策(83.1%)、⑧学校公開等の情報公開(94.8%)、⑨学校の通知文(89.6%)、⑩保護者の学校行事への参加のしやすさ(90.9%)、⑪教員の対応や言葉遣い(94.9%)と20項目中11項目あった。また否定的評価の割合が20%を超えたのが、①基礎学力の定着への取組(25.0%)、②ボランティア活動の参加状況(26.3%)、③保護者の学校への関わり方(21.6%)、④サプリノートの活用(26.0%)であり、引き続き教育活動を充実させていきたい。

3 今後の改善方策

- (1) 少人数指導・個に応じた指導の充実…区講師を活用した少人数による授業を充実させるとともに、一斉指導における個に応じた指導を丁寧に行うことを各教科で徹底し、更なる学力向上に努める。
- (2) 分掌組織の見直し…現在の校務分掌組織を見直し、教務部と生活指導部の2つの分掌にまとめることで、各分掌内の人数を増やし、仕事の分担をしやすくする。
- (3) 新しい教育課題への対応…ICT教育、道徳の教科化、特別支援教育等の本校の解決すべき教育課題を明確にし、その解決に努めるカリキュラムマネジメントを充実させる。
- (4) 保護者の本校理解の促進…保護者のアンケートで「わからない」と回答する保護者が、どの項目も一定数いる。特に多い割合の多い項目については、たより類やHPを充実させ、教育内容を丁寧に伝える。